

連載



前回の連載（5月20日号掲載）では、「人気沸騰で多様化するインド株ファンド」として、インド株ファンドの残高が初めて3兆円の大台を突破したことを取り上げました。投信評価を行うモーニングスターのデータによれば、5月末時点の外国株式型の残高は64.4兆円に達しており、その過半はグローバル株式型となっていますが、単一国としてインドを上回っているのが米国株ファンドで、その残高は20.5兆円に達しています（図表1参照）。ちなみに、国内株式型の残高が16.8兆円なので、米国株ファンドは日本株ファンドの残高も上回っており、極めて人気の高い投資先と言えるでしょう。そこで今回は、単一国の株式ファンドとしては最も残高が大きい米国株ファンドの中身を詳しく見ていきます。

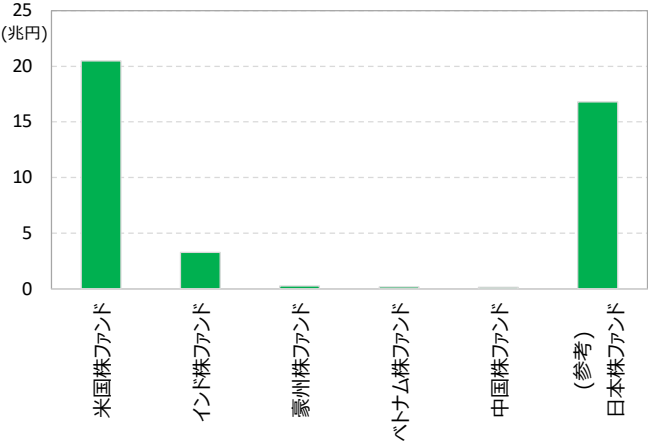
米国株ファンドの20.5兆円のタイプ別内訳について、モーニングスターのグローバル分類を用いて集計したのが図表2ですが、そのほとん

どは大型株を投資対象としたものであることが確認できます。これは、本国の資産運用のスタイルを反映している部分もあるとは思いますが、米国株のグロースとバリューというスタイル別のアプローチと、それをミックスしたブレンドの3つの分類で89.0%と全体の9割近くを占めている計算です。また、セクターやテーマを絞った米国株ファンドが9.4%を占めています。前回の連載ではインド株ファンドにおいて、中型株・小型株を投資対象としたものへの資金流入が目立っていることを取り上げましたが、これだけ残高が大きく、日本での人気が高い米国株ファンドへの投資では、規模別の分散はさほど進んでいないということになります。

なお、冒頭で米国株ファンド、日本株ファンド、インド株ファンドの残高について触れましたが、単一国の株式ファンドとしてはこの3カ国に残高が集中しており、これらを除いて1兆円に達している単一国はありません。日本株ファンドの内訳を見ると、個別企業の銘柄選定が難しいと言われる中小型株において、ファンドを活用するという動きも見られます。そういった意味でも、単一国として最大の残高を誇る米国株ファンドのカテゴリーにおいて、グロースやバリューというスタイル別の分散に加えて、規模別の分散ニーズが出てくる可能性もありそうです。

（執筆：BNPパリバ・アセットマネジメント 藤原延介）

図表1 追加型・外国株式ファンドにおける単一国ファンドの残高（2024年5月末時点）



出所: Morningstar Directのデータを用いてBNPパリバ・アセットマネジメント(株)が作成

図表2 追加型・米国株ファンドにおける残高のタイプ別内訳（2024年5月末時点）

